

読んでみよう 解いてみよう
さん太のワークシート

広野小（津山市）の6年生が、地元の遺族会と共に戦没者（戦争で亡くなった人）を弔う慰霊祭に参加しました。記事を読み質問に答えましょう。

Q1 広野地区の遺族会は戦没者をまつる慰霊塔を建て、清掃をしたり慰霊祭をしたりしていました。最近、どのような問題が起きていたでしょうか。第2段落から書き出しましょう。

Q2 小学生が慰霊祭に参加することについて、小学生にはどのようなことが期待されていますか。第1段落を読み答えましょう。

Q3 戦争の歴史を未来へ語り継ぐために、若い世代の皆さんにできることを考えましょう。

広野地区では1952年、旧広野村と地域住民が第2次世界大戦までに戦死した戦没者をまつる慰霊塔を建立。地区遺族会のメンバーが清掃などの管理や秋の彼岸時期に慰霊祭を開く学習や遺族会の助けにつながら、最近では高齢者が

戦没者鎮魂
次代へ継承

広野小（津山市田熊）6年生13人が、同小近くの慰霊塔で地区の遺族会メンバーらと慰霊祭を行い、戦没者を弔った。塔の維持管理などに取り組むメンバーの高齢化が進む中、児童たちは今後も慰霊祭開催に携わり、地域の歴史や戦争について学びながら、鎮魂の祈りを次代につないでいくという。（山本唯菜）

広野小6年生、遺族会と慰霊祭



慰霊塔の前で平和への誓いを新たにする広野小6年生

慰霊祭を試行。今年も修学旅行生が9月27日、平和学習で12月に広島市を訪れる6年一環で取り組んだ。

歴史や戦争学び平和誓う

慰霊祭には児童や遺族会メンバー、地域住民ら約20人が参加。平和宣言を唱和した後、全児童121人で折った折り鶴を奉納し、1分間の黙とうをささげた。児童は市遺族連合会の大塚邦久会長（80）から太平洋戦争の話も聞いた。6年岡本桃里乃さん（12）は「戦争は絶対に起こしてはいけない」と一層強く思った。これからは私たちが語り継いでいかないと話した。広野地区遺族会の湯原晴夫会長（76）は「子どもたちが慰霊祭に関わり、受け継いでくれることには感激しかない。自分も活動を頑張らなければと奮起する気持ちが湧いた」と喜んでいる。

5日付山陽新聞、作州ワイド版

過去の問題は
こちらから▶▶



◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。